

ノーザンディメンション

- 拡大EUとスラブ圏の域際交流の拡大 によるヨーロッパ経済空間の再編 -

1 6 3 3 0 0 5 2

平成16年度～平成18年度科学研究費補助金

(基盤研究(B)) 研究成果報告書

平成19年4月

研究代表者 蓮 見 雄 (立正大学経済学部 教授)

研究分担者 志摩園子 (昭和女子大学人間社会学部教授)
田口雅弘 (岡山大学大学院社会文化科学研究科教授)
服部倫卓 (上智大学外国語学部非常勤講師)

目 次

	ページ
はしがき	3
研究活動報告	4
序章 EU統合の深化・拡大とノーザンディメンション	
蓮見雄、田口雅弘	14
第 部 ノーザンディメンションの理念とEU	47
第1章 Inevitable End or New Beginning: Assessing Alternative Perspectives to the Northern Dimension and Its Future Prospects Marko Lehti	48
第2章 「ひとつのヨーロッパ」とボーダー・リージョンの新たな役割 蓮見 雄	80
第3章 多元的開放型リージョナル・ガバナンスの形成 - ワイダー・ヨーロッパから欧州近隣諸国政策へ - 蓮見 雄	104
第4章 The Relevance of Dimensionalism in the Age of European Neighbourhood Policy: The Case of the Northern Dimension Hiski Haukkala	138
第 部 ノーザンディメンションに包括されるサブ広域地域の諸問題	152
第5章 カレリア共和国の経済と近隣諸国との地域協力 D・ヴォロンツォフ（服部倫卓訳）	153
第6章 サンクトペテルブルグの経済と対EU関係 服部倫卓	172
第7章 環バルト海地域のネットワーク - BEN (Baltic Euroregional Network) プロジェクトを例にして 志摩園子	187
第8章 Kaliningrad's Toward Turn to Europe: How Crooked? How Far? Nataliya Smorodinskaya	193
第9章 ポーランドに見るEU内、国内経済格差の実態 田口雅弘	238

第 部	ノーザンディメンションの課題別実証分析	260
第10章	トランスボーダーリージョンをめぐる諸問題 - ポーランド東部 国境地帯のユーロリージョン - M・W・ソハ、B・ロキツキ（田口雅弘訳）	261
第11章	f The Effects of Poland's Integration with the EU: Financial Transfers and Eastern Border Regions Economic Development Mieczysław W. Socha, Bartek Rokicki	331
第12章	ノーザンディメンションとエネルギー安全保障 蓮見 雄	351
第13章	ノーザンディメンションにおけるクラスターの形成とロシア 蓮見 雄	382

はしがき

ノーザンディメンション（Northern Dimension = ND）は、バルト海、北海、ロシア北西地域等をカバーする EU の地域政策プログラムである。今日、ND はヨーロッパ自体の小宇宙である。EU、NATO 加盟国（エストニア、ラトヴィア、リトアニア、デンマーク）、非 NATO 国（フィンランド、スウェーデン）、非 EU 国（アイスランド、ノルウェー）、そしていずれも比較的小規模でロシアと地理的に近い。それ故に、この地域協力は、「分断のないヨーロッパ」「ひとつのヨーロッパ」を目指すいわば実験室の役割を果たす。本共同研究は、「拡大 EU とスラブ圏の域際交流の拡大によるヨーロッパ経済空間の再編」という分析視点から、「EU 内のミクロ地域レベルでの再編問題が EU 域外の近隣諸国を含めたマクロなヨーロッパ経済空間の再編問題とリンクする地域協力」の一例として ND の分析を試みた。

多くの海外共同研究者の参加を得たことは、本研究の大きな特徴である。それは、上述のような研究対象そのものの性格の反映でもある。本報告書には、4 人の国内研究分担者と 5 人の海外共同研究者の論文が含まれている。ヴォロンツォフ氏にはロシアの現地調査で多大なご協力を頂いた。ソハ氏、レヒティ氏は、2006 年の比較経済体制学会第 5 回 秋季大会第 1 分科会「ノーザンディメンション」で共同研究の成果を報告して下さい、4 人の研究分担者も報告、討論に加わった。スモロジンスカヤ氏、ハウッカラ氏と蓮見は、『ロシア・ユーラシア経済』誌 2007 年 3 月号「特集 欧州北部の地域協力とロシア」に寄稿し、共同で研究成果の報告を行った。

本研究が実施された 2004 年 4 月～2007 年 3 月の 3 年間は、EU が 15 カ国から 27 カ国へと拡大した大きな変化の時期であった。EU の拡大は、EU の域外に留まる国々との共存が EU 内部の安定にとっても最重要課題となることを意味した。それは、欧州近隣諸国政策（European Neighbourhood Policy=ENP）の形成を促した。ENP は「域際交流の拡大によるヨーロッパ経済空間の再編」に連なる「多元的開放型リージョナル・ガバナンス」形成の可能性を切り開いている。これは、まさに ND の課題であった。そのため、ND そのものの独自性は薄れたものの、それは ENP の中に生きている。そればかりではない。EU にとってロシア要因は依然として不安定要素であるとしても、ND の枠組みの中で行われてきた様々な協力の試みは、国境を越えた産官学の協力（トリプル・ヘリックス・モデル）に基づいたバルト海経済圏の形成という形で結実しつつある。そこに、ロシア要因を地域の成長要因に組み込む「経済空間の再編」の可能性が芽生え、わたしたちが共同研究を継続する必然性を生み出している。

こうした歴史的変化の時期に国際的な共同研究を組織する機会を得て、長期にわたる共同研究の基盤を構築し得たことは幸いであった。わたしたちの共同研究の可能性を評価し、助成金を交付して下さった日本学術振興会に感謝する。

2007 年 3 月 20 日

研究代表者 蓮見雄

研 究 活 動 報 告

平成16年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））課題番号：16330052

「ノーザンディメンション - 拡大EUとスラブ圏の域際交流の拡大によるヨーロッパ経済空間の再編 - 」(The Northern Dimension - Changing the European Economic Space by the Cross-border Regional Cooperation between the Enlarged EU and Slavic Areas)

1．研究組織

研究代表者	蓮見雄（立正大学経済学部 教授） Yuh Hasumi (Research representative, Professor, Faculty of Economics, Rissho University, Tokyo)
研究分担者	志摩園子（昭和女子大学人間社会学部教授） Sonoko Shima (Professor, Faculty of Human and Social Sciences, Showa Women's University, Tokyo)
研究分担者	田口雅弘（岡山大学大学院社会文化科学研究科教授） Masahiro Taguchi (Professor, Graduate School of Humanities and Social Sciences, Okayama University, Okayama)
研究分担者	服部倫卓（上智大学外国語学部非常勤講師、(社)ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所調査役） Michitaka Hattori (Part-time Lecturer, Faculty of Foreign Studies, Sophia University, Tokyo, / Senior Economist, Japan Association for Trade with Russia & NIS, Institute for Russian & NIS Economic Studies, Tokyo)
海外共同研究者	マルコ・レヒティ（トゥルク大学現代史学科上級研究員） Marko Lehti (Senior research fellow, Tampere Peace Research Institute University of Tampere, FINLAND)
海外共同研究者	ミチェスワ・W・ソハ（ワルシャワ大学経済学部教授） Mieczysław Socha (Professor, Faculty of Economic Sciences, Warsaw University, POLAND)
海外共同研究者	ドミトリー・ヴォロンツォフ（元ロシア東欧貿易会モスクワ事務所副所長／伊藤忠商事モスクワ事務所部長代理） Dmitriy V. Vorontsov (Moscow office, former deputy director, Japan Association for Trade with Russia and Central-Eastern Europe ROTOBO / Deputy General Manager of Business Development Department, Moscow Representative Office of ITOCHU Corporation)

海外共同研究者 ナターリヤ・スモロジンスカヤ（ロシア科学アカデミー経済研究所成長センター・自由経済区研究部長）
Nataliya Smorodinskaya (Director Centre for Growth poles & Free Economic Zones Studies, Institute of Economics of Russian Academy of Sciences.

海外共同研究者 ヒスキ・ハウッカラ（フィンランド国際問題研究所研究員）
Hiski Haukkala (Researcher, Finnish Institute of International Affairs, Finland)

２．交付決定額（配分額）

	直接経費	間接経費	合計
平成16年度	4,800,000円	0円	4,800,000円
平成17年度	5,600,000円	0円	5,600,000円
平成18年度	3,800,000円	0円	3,800,000円
総計	1,4200,000円	0円	1,4200,000円

３．研究概要

本報告書は、14 章 3 部構成となっている。序章は、EU 統合の深化・拡大とノーザンディメンション（ND）の関連性を考察し、ND が、EU 研究とロシア・スラブ研究をつなぐ重要な研究課題であることを示している。

第 部「ノーザンディメンションの理念と EU」の各論文は、「分断のないヨーロッパ」を構築する上で ND が高い可能性をもつと同時に、EU 内部のガバナンス問題にもかかわる厳しい困難に直面していることを、それぞれ独自の分析視角から論じている。第 1 章は、欧州近隣諸国政策の形成にともなって ND の存在意義そのものが問われている状況を明らかにしている。第 2 章は、EU 自身の地域政策の強化による「地域のヨーロッパ」的性格の中にボーダー・リージョンの発展の可能性を見出し、第 3 章ではそれがさらに EU 域外地域をも含む広域の地域協力の発展につながる展望を示している。第 4 章は、ND が EU の北と東への 2 つの拡大による結果生まれたものであり、それはさらに EU 内外の広域地域間の競争を生み出していると主張する。

第 部「ノーザンディメンションに包括されるサブ広域地域の諸問題」の各論文は、いくつかの重要なサブ広域地域に視点を定めた現状分析を行っている。第5章は現地調査に基

づいたカレリアとフィンランドの国境域の現状を紹介している。第6章はフィンランド湾に面するサンクトペテルブルグが急速に国際産業都市に変貌しつつあることを明らかにしている。第7章はバルト海地域におけるユーロリージョン（地方自治体の下からの協力）のネットワークについて考察し、国家間協力に留まらず、下からの広域協力が進展していることを明らかにしている。第8章は、ポーランドとリトアニアに挟まれたロシアの「飛び地」カリーニングラード経済の現状と新しい経済特区法について批判的に論じ、ロシア側の政策転換の必要性を説いている。第9章は、東西ヨーロッパの中間に位置する大国ポーランドの東部国境域の経済格差の実態を明らかにしている。

第 部「ノーザンディメンションの課題別実証分析」では、NDの課題別実証分析を行った。第10章は、膨大なデータを分析することによって、ポーランド東部国境域のユーロリージョンの現状を詳細に明らかにしている。第11章は、こうした国境域の発展に対するEU加盟の影響を資金移転の点から分析している。第12章は、ロシア・EU協力において最重要課題となっているエネルギー安全保障について、EU加盟国間のエネルギー事情の相違とロシアのエネルギー産業の問題点に留意しながら、エネルギー安全保障がNDの枠組みにおける地域協力にも大きな影響を及ぼすことを示している。第13章は、NDが困難に直面している現状を認めつつ、当該地域において様々な地域協力枠組みが重層し、その中で国境を越えた産官学の連携（トリプル・ヘリックス・モデル）がバルト経済圏というクラスター（新しい自己認識と発展の核）を生み出しつつあることを明らかにしている。

以上の簡単な紹介からも明らかのように、NDは「分断のないヨーロッパ」を構築する実験室として極めて有益な協力枠組みであるが、その課題の大きさ故に様々な困難に直面している。だが、かつてこの地域が東西冷戦の最前線であり国境をこえた地域協力が想像すらできなかった時代を想起していただきたい。冷戦後、当該地域では、様々な地域協力の試みが行われ、それはバルト海経済圏の胎動という新しい広域地域を包括する共通のアイデンティティの構築の可能性を生み出している。NDが困難に直面しているのは、そのミクロレベルの地域再編問題がEU域外の近隣諸国を含めたマクロなヨーロッパ経済空間の再編問題、いいかえれば「ひとつのヨーロッパ」の構築という歴史的な課題と直接リンクしているからである。しかもそれは、EU自身の経済競争力の回復の鍵を握るリスボン戦略の成否とも連動している。したがって、その困難は逆説的にも、その潜在的可能性の高さを示していると考えられる。この仮説の検証は、NDを包摂する地域における様々な地域協力の試みの中で生まれてきたバルト経済圏に関する共同研究を継続することによって明らかになるであろう。

なお、海外共同研究者による論文の初期のものは邦訳などの形で紹介済であるが、本報告書には英文の最新版を収録することとした。ロシア語とポーランド語の論文のみ、邦訳を掲載した。また、本報告書に収録する予定であった論文の一部を、紙幅の制約から割愛せざるを得なかった。詳細については、以下の研究成果を参照していただきたい。

4 . 研究成果

(1) 学会誌等

蓮見雄「拡大EUの中のロシア - カリーニングラード問題 - 」『EUの東方拡大』日本EU学会年報第24号、2004年9月、pp.125-143

蓮見雄「欧州近隣諸国政策とは何か」『慶応法学』第2号、2005年3月、pp.141-187

蓮見雄「ヨーロッパの中のロシア - 地域協力の視点から」『比較経済体制研究』第12号、2005年9月、pp.14-31

蓮見雄「「ひとつのヨーロッパ」とボーダー・リージョンの新たな役割」立正大学『経済学季報』第55巻1号、2005年9月、pp.163-207

蓮見雄「EUの拡大とロシア」『ロシアの政財界における新しい潮流』(内閣府内閣調査室委託事業報告書)(社)ロシア東欧貿易会ロシア東欧経済研究所、2005年3月、pp.17-41

蓮見雄「グローバル経済ガバナンス問題と国際機構・EU - 「市場との対話」と「市民社会との対話」の両立は可能か - 」『慶應法学』第5号、2006年5月、pp.155-221

蓮見雄「エネルギー対話 - ロシアとEUの同床異夢」『ロシア・ユーラシア経済調査資料』7月号、2006年7月、pp.2-16

蓮見雄(翻訳)N.スモロジンスカヤ著「カリーニングラード州：近代化の展望と問題点」、『比較経済体制研究』第13号、2006年12月、pp.75-90

蓮見雄「欧州北部におけるクラスターの形成とロシア」『ロシア・ユーラシア経済 - 研究と資料 - 』3月号、2007年3月、pp.38-51

蓮見雄(翻訳)N.スモロジンスカヤ著「グローバリゼーション時代のカリーニングラード - ロシア・EUの和解におけるその役割 - 」『ロシア・ユーラシア経済 - 研究と資料 - 』3月号、2007年3月、pp.17-37

蓮見雄「カリーニングラード - 空間と時間を超える都市」『ユーラシア研究』第36号、2007年5月発表予定

志摩園子「戦間期の日本 - ラトヴィヤ関係の考察 - (1) 外交関係の始まり」『学苑』2005年

志摩園子「ラトヴィヤにおける民族・国家の形成」『歴史評論』No.665、2005年

志摩園子「ラトヴィヤ共和国の成立と地域協力 - 国民国家の役割と限界に関する考察」H.15～16年度科研費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書(課題番号:1553010)、2005年12月

志摩園子「地域空間としての「バルト」の醸成と変容」『バルトとバルカンの地域認識の変容』北海道大学スラブ研究センター研究報告集 No.13、2006年

志摩園子“Dimensions and Geopolitical Diversity of ‘the Baltic’ then and now ”, Slavic Research Center, printing

服部倫卓「ロシア・ベラルーシ関係に何が起きているのか - 天然ガス・スキャンダル

が意味するもの」『ワールド・トレンド』第10巻、2004年

服部倫卓「ベラルーシは独裁の孤塁を守るのか」『海外事情』第53巻第5号、2005年

服部倫卓「ベラルーシの動向とエネルギー事情　ロシアを翻弄する小国」『ペトロテック』第28巻第8号、2005年

服部倫卓「2004年のロシアの外国投資受入状況（詳報）」『ロシア東欧貿易調査月報』第50巻第7号、2006年

服部倫卓「モスクワ～カリーニングラード家電ミッション報告（上）：家電ミッションの若干の総括」『ロシア東欧貿易調査月報』第51巻第1号、2006年

服部倫卓「始動するロシアの経済特区制度」『ロシア東欧貿易調査月報』第51巻第3号、2006年

服部倫卓「ベラルーシ “象徴”　特集：アメリカに名指しされた国々」『力の意志』第6号、2006年

服部倫卓「2005年の日ロ貿易」『ロシア東欧貿易調査月報』第51巻第5号、2006年

服部倫卓「2005年のロシアの外国投資受入状況（詳報）」『ロシア東欧貿易調査月報』第51巻第7号、2006年

服部倫卓「競争が激化するロシアの液晶テレビ市場」『ロシア東欧経済速報』8月15日号、2006年

服部倫卓「欧州最貧国モルドバに行く」『ロシアNIS調査月報』第51巻第11号、2006年

服部倫卓「モスクワ国際自動車見本市視察報告」『ロシアNIS調査月報』第51巻第11号、2006年

服部倫卓（編）『ロシア地域要覧　2006～2007』（社）ロシア東欧貿易会、2006年

田口雅弘「社会主義経済システム崩壊のメカニズム　ポーランドのケースに基づく崩壊プロセスのモデル化」『比較経済体制研究』第11号、2004年6月、pp.38-52

田口雅弘「1970年代ポーランドにおける対外債務累積のメカニズム」『岡山大学経済学会雑誌』第36巻第4号、2005年3月、pp.69-84

田口雅弘「両大戦間期ポーランドにおける国家主義の台頭　- 成長戦略としてのエタティズム - 」『岡山大学経済学会雑誌』第37巻第2号、2005年9月、pp.1-17

田口雅弘（翻訳）（監訳）グジェゴシュ W. コウオトコ（吉崎知子訳）「制度と政策および経済成長」『岡山大学経済学会雑誌』第37巻第1号、2005.6、pp.149-170

田口雅弘（翻訳）ミェチスワフ・W・ソハ、バルトゥウォミエイ・ロキツキ「ポーランド東部国境地帯のユーロリージョン（1）」『岡山大学経済学会雑誌』第38巻第2号、2005年9月、pp.147-159

田口雅弘（翻訳）ミェチスワフ・W・ソハ、バルトゥウォミエイ・ロキツキ「ポーランド東部国境地帯のユーロリージョン（2）」『岡山大学経済学会雑誌』第38巻第3号、2005年12月、pp.57-89

田口雅弘（翻訳）ミェチスワフ・W・ソハ、バルトゥウォミエイ・ロキツキ「ポーランド東

部国境地帯のユーロリージョン(3)』『岡山大学経済学会雑誌』第38巻第4号、2006年3月
発表予定

田口雅弘「現地レポート ポーランド 西欧から東欧への進出」(特集: 欧州史の再統一
拡大EUの可能性)『外交フォーラム』都市出版株式会社、No.193、2004年8月、pp.69-71

田口雅弘「ポーランドにみる欧州の新たな地平」『地理月報』二宮書店、No.486、2005年6
月、pp.5-8

田口雅弘 'Mechanizm upadku socjalistycznego systemu gospodarczego', *Discussion Paper Series*,
I-56, The Economic Association of Okayama University, May 2006.

ヴォロンツォフ「カレリア共和国の経済と近隣諸国との協力関係」『ロシア東欧貿易調査月
報』第51巻第3号、2006.

学術誌での研究成果特集

『ロシア・ユーラシア経済 - 研究と資料』2007年3月号特集「欧州北部の地域協力とロシア」
第1論文 H. ハウツカラ、志摩園子訳「欧州近隣諸国政策時代のダイメンショナリズムの妥
当性 - ノーザン・ダイメンションの場合」pp.2-16.

第2論文 N. スモロジンスカヤ、蓮見雄訳「グローバリゼーション時代のカーリーニングラー
ド - ロシア・EUの和解におけるその役割」pp.17-37.

第3論文 蓮見雄「欧州北部におけるクラスターの形成とロシア」pp.38-51.

(2)口頭発表

N D研究会 2004年6月1日

場所: 立正大学

小林誠(ゲスト)「ウクライナ、カーリーニングラード取材報告」

蓮見雄「ノーザンディメンションの概要と研究方法について」

討論: 研究プロジェクトの進め方について

N D研究会 2005年3月3日

場所: 立正大学

渡辺尚(ゲスト) 「地域のヨーロッパ」

庄司克宏(ゲスト) 「EU憲法」

志摩園子 「EUとバルト諸国、バルト海都市ネットワーク」

田口雅弘 「ポーランドのEU加盟とトランスボーダーリージョンの動向」(ポーランド6カ
月滞在後の帰国報告)

服部倫卓 「EUと西NIS」(ベラルーシ、ロシア、ウクライナ出張報告)

蓮見雄「ヨーロッパの中のロシア - 地域協力の視点から - 」比較経済体制研究会（関西大学セミナーハウス） 2004年9月17日

蓮見雄「ヨーロッパ共通経済空間の可能性 - EU拡大後の欧州秩序とWider Europe - 」日本国際経済学会第63回全国大会（慶応大学） 2004年10月10日

蓮見雄「欧州近隣諸国政策とロシア」、日本国際政治学会2004年度大会（淡路島国際会議場） 2004年10月16日

蓮見雄「欧州近隣諸国政策について」2004年11月20日、慶應EU研究会（Keio Jean Monnet Workshop for EU Studies）

蓮見雄「ワイダー・ヨーロッパの中のロシア」比較経済体制学会第45回大会（桜美林大学） 2005年6月4日

蓮見雄「EU拡大とロシア」内閣府内閣官房内閣情報調査室事業『ロシアの政財界における新しい潮流』研究会、2005年2月14日

蓮見雄「通商・金融と社会問題 - グローバル化と国際機構・EU」慶應EU研究会（Keio Jean Monnet Workshop for EU Studies） 2005年7月30日

蓮見雄「地域的グローバルガバナンス形成過程としての欧州近隣諸国政策」日本EU学会第26回大会（九州大学） 2005年11月13日

蓮見雄「EU拡大後の欧州秩序とボーダー・リージョンの役割」「国境を越える地域経済力バナンス・EU諸地域の先行例を中心とした比較研究（基盤研究A） 課題番号：14252007」研究会（同志社大学） 2005年12月3日

蓮見雄「ロシアの対EU外交・エネルギー戦略」内閣府内閣官房内閣情報調査室事業「ロシアの内政・外交」に関する調査・研究」研究会、2006年3月16日

蓮見雄「カリニングラード経済特区とロシア家電産業」比較経営学会第31回全国大会（中京大学） 2006年5月13日

蓮見雄「EU共通エネルギー政策」慶應EU研究会Keio Jean Monnet Workshop for EU Studies） 2006年9月30日

蓮見雄「Russian Factors in the ND - A Case of Kaliningrad」比較経済体制学会秋期大会（神戸大学） 2006年10月28日

蓮見雄「グローバル経済ガバナンス問題と説明責任（accountability）-「多元的開放型リージョナル・ガバナンス」の可能性」新東京国際研究会冬期例会（関東学院大学） 2006年12月2日

蓮見雄「グローバル経済ガバナンスにおける国際機構・EUの役割 - アジアにおける地域協力への示唆 - 」慶應EU研究会（Keio Jean Monnet Workshop for EU Studies） 2007年4月28日 報告予定

蓮見雄 “Roles of International Organisations and the EU in Governing the Global Economy: Implications for Regional Cooperation in Asia”, The Third EU-NESCA Workshop in Commemoration of 10th Anniversary of Graduate School of International Studies, Korea University,

May 18, 2007 報告予定

志摩園子 “Introduction to Japanese -Latvian Relations between the Wars (1) The Beginning of Diplomatic Intercourse”, 国際関係史学会 (Commission of the History of International Relations) 2004.

志摩園子 「地域空間としての「バルト」の醸成と変容 2004年12月冬期シンポジウム、スラブ研究センター、北海道大学、2005年6月

志摩園子 “Dimensions and Geopolitical Diversity of ‘the Baltic’ then and now”, Winter Symposium, Slavic Research Center, Hokkaido University, 2005年12月

志摩園子 「欧州バルト海地域の越境協力 シンポジウム「越境広域経営と地域主義」パネリスト、環日本海学会大会 (弘前大学) 2005年9月

志摩園子 「バルトの諸次元と地政学的多様性について」「EU拡大後のエストニア・ラトヴィアにおける国家統合と複合民族社会形成に関する研究」(科研基盤研究(A) 海外学術調査) 第2回研究会、2005年12月

志摩園子 “Dimensions and Geopolitical Diversity of ‘the Baltic’ What is ‘the Baltic’?”, International Conference, George Washington University, Association for Advancement of the Baltic Studies June, 2006.

田口雅弘 「ポーランドにおける経済格差拡大の諸要因分析」格差研究会 (岡山大学経済学部) 2005年10月24日

田口雅弘 「《ヨーロッパ回帰》の経済・社会的軋轢」 フォーラム・ポーランド Forum “POLSKA” 2005年度会議 「ヨーロッパへの回帰」をめぐって 駐日ポーランド共和国大使館多目的ホール、2005年10月29日

田口雅弘 「ポーランド体制転換とEU東方拡大」 慶應義塾大学 国際関係市民意識研究 / 慶應EU研究会 (Keio Jean Monnet Workshop for EU Studies) 2006年1月28日

田口雅弘 (報告) 「ポーランドおよびEU内における経済格差」 格差研究会 (岡山大学経済学部) 2007年1月17日

服部倫卓 「ロシアの外国投資受入統計と日本の対ロ投資」北海道大学スラブ研究センター、2005年7月17日

服部倫卓 “State as Incubator of Nations The Paradox of Belarus and other Former Soviet States”, 国立民族学博物館地域研究企画交流センター国際シンポジウム「消滅しない国家 民族を通して考える」 2006年1月13日

服部倫卓 「ロシア・ベラルーシ関係の文脈から見たヤマル・パイプライン」北海道大学スラブ研究センター、2006年7月15日

ヴォロンツォフ 「今日のロシア経済 - ミクロ経済を中心に」比較経済体制研究会(関西大学)、2004年11月16日

比較経済体制学会 第5回 秋季大会 2006年10月28日(土) 神戸大学経済学研究科

第1分科会「ノーザンディメンション」(本館会議室)

司会: 田中宏(立命館大学)

第1報告: ミチエスワフ・ソハ(ワルシャワ大学)

“The Effects of Poland's Integration with the EU: Financial Transfers and Eastern Border Regions Economic Development” (Bartłomiej Rokicki氏と共著、報告はSocha氏のみ)

討論: 田口雅弘(岡山大学)

第2報告: マルコ・レヒティ(トゥルク大学)

“Inevitable End or New Beginning: Assessing Alternative Perspectives to the Northern Dimension and Its Future Prospects”

討論: 志摩園子(昭和女子大学)

第3報告: 蓮見雄(立正大学)

“Russian Factors in the Northern Dimension - A Case of Kaliningrad”

討論: 服部倫卓(ロシア東欧貿易会)

(3) 出版物

蓮見雄「ロシア・EU関係の現状とカリーニングラード問題」『ロシア関税システム調査報告書 - カリーニングラード経済特区をめぐる状況等を中心に - 』(社)ロシア東欧貿易会ロシア東欧経済研究所、2006年3月、pp.15-36

蓮見雄(共訳) ウサノフ、ハリン著「カリーニングラード州特別経済区の特質とその評価」『ロシア関税システム調査報告書 - カリーニングラード経済特区をめぐる状況等を中心に - 』(社)ロシア東欧貿易会ロシア東欧経済研究所、2006年3月、pp.37-68

蓮見雄「通商・金融と社会問題 - グローバル化と国際機構・EU」庄司克宏編『国際機構』岩波書店、2006年4月、+ 227p., pp.165-188

蓮見雄『琥珀の都カリーニングラード - ロシア・EU協力の試金石』東洋書店、2007年6月発表予定、64pp.

蓮見雄(共訳) ウォーナー著『市場経済移行諸国の企業経営 - ベルリンの壁から万里の長城まで』昭和堂、2007年6月発表予定

志摩園子『物語 バルトの歴史』中央公論新社、2004年

志摩園子「ヨーロッパの東方拡大とラトヴィヤ」『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店、2006年

志摩園子『サブリージョンから読み解くEU・東アジア共同体』弘前大学出版会(「バルト海

地域協力」)、2006年

田口雅弘『ポーランド体制転換論 システム崩壊と生成の政治経済学』御茶の水書房、2005年、272+vii pp.

田口雅弘「東欧の大国ポーランドとEU加盟」田中俊郎、庄司克宏編『EUの軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会、2006年、pp.285-303

田口雅弘(共訳)W・G・コウトコ(家本博一・田口雅弘・吉井昌彦訳)『「ショック」から「真の療法」へ - ポスト社会主義諸国の体制移行からEU加盟へ - 』三恵社、2005年

田口雅弘(共訳)アンジェイ・ガルリツキ(渡辺克義・田口雅弘・吉岡潤監訳)『ポーランドの高校歴史教科書【現代史】』(世界の教科書シリーズ12)明石書店、2005年

田口雅弘・関口時正編著『フォーラム・ポーランド2005-2006会議録 Forum Polska. Konferencje 2005-2006』、ふくろう出版、2007年、112pp

服部倫卓『歴史の狭間のベラルーシ』東洋書店、2004年

SUMMARY OF RESEARCH RESULTS

The Northern dimension (ND) is a regional policy of the EU covering not only regions around the Baltic Sea and the North Sea, but also north-west regions of Russia. ND is a microcosm of Europe itself. There are countries relatively small and proximate to Russia: members of both the EU and NATO (Estonia, Latvia, Lithuania and Denmark); non-NATO country (Finland, Sweden); and non-EU country (Iceland, Norway). Therefore, ND could play the role of “a laboratory of making Europe without dividing”.

We studied ND as a special example in which cross-border regional cooperation at the micro-area level in the EU is linked to macro problems of reorganizing the European Economy Space between the Enlarged EU and Slavic Areas. The EU enlarged from 15 to 27 members in the period of the study. It means that coexistence with the neighbouring countries is more important than ever for the stability of the EU itself. As a result, the European Neighbourhood Policy was formed as a new tool of the EU. It opens up the possibility of “plurilateral open-regional governance” towards reorganizing the European Economic Space by cross-border regional cooperation between “in” and “out” of the EU, although it is on the process of development. It is the problem of ND itself. Although the originality of ND is fading, its concept lives in European Neighbourhood Policy. Even if the Russian factor is still an unstable element, there emerges the regional economic cooperation - “Baltic Sea Region” based on cross-border regional cooperation between business, government and academia (Triple Helix Model) as a result of groping to various kinds of cooperation in the area of the ND. Now we found the possibility of changing the European Economic Space by including the Russian factor in the growth factor in the ND.